

# 平塚らいてうの会ニュース

発行  
平塚らいてうの会  
〒112-0002  
東京都文京区  
小石川  
5-10-20-5F  
TEL・FAX  
03-3818-8626

## 第11回総会ひらく ご寄付を有効に活かして

去る4月29日、「第11回通常総会」を開催しました。前号ニュースで大枠ご紹介しましたが、全国のみなさまの大きなご支援で多額のご寄付を頂戴し、感謝しつつ意を強くして今年度の方向を話しあいました。らいてうの家の庭を広げて整備し、ここを中心に7月31日～8月8日まで夏祭りを実施しました。また来年は「青鞥百年」にあたり、ここを中心として2010年らいてう忌をとります。「プレ青鞥百年」として2010年らいてう忌をとります。



さらに、NPT再検討会議に向けての国際行動に米田会長を送り出しました。署名、カンパに感謝申し上げます。帰国報告会を「らいてう講座」として6月13日、「家」

にて行ないました。

役員については、全員留任で信任されました。  
会長・米田佐代子、副会長・折井美耶子、木村康子、中嶋邦、堀江ゆり、事務局長・小林明子、理事・飯村しのぶ、井上美穂子、植草充代、小野塚歩、木村見江、小池道子、小林典子、斉藤慶子、坂口久美子、佐藤実喜子、杉山洋子、関町好子、富松裕子、花岡静枝、藤原美津子、三留弥生、山田繁子、監事・江川邑江、小島妙子

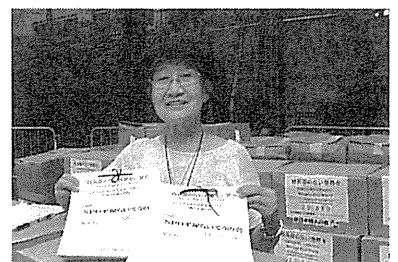
2009年度のご寄付の使途は以下の通りです。  
寄付金 799万6782円  
2009年度寄付金として 200万円  
「家」隣接地購入関係費239万6850円  
「青鞥百年」関係費積立 50万円  
・(女性文化賞資金50万円と併せ100万)  
来期以降運用資金積立309万9932円  
合 計 799万6782円

## NPT再検討会議・ ニューヨーク行動に参加して

米田佐代子

4月30日から5月5日まで、ニューヨークに行ってきました。5月3日国連で開会するNPT再

検討会議に向けて、「核兵器禁止・核廃絶条約の交渉開始・締結を」と訴えるため、世界中からやってきた一万数千人とともに前日の2日、マンハッタンの歩道上で集会を開いて国連前の広場まで「大行進」しました。集まった署名は6百90万以上だったそうです。(写真)



オカネも人手もないわが会が参加できたのは、署名や参加費寄付にご協力くださったみなさまのお力、と心から感謝しています。この報告は、署名に添えられたメッセージや詩とともに近日冊子にてお届けします。

NPT会議は難航しましたが、2005年にはブッシュ大統領のアメリカが反対して、何も合意できなかった「失敗」を乗り越えて28日、最終文書を満場一致で採択したのです。内容は不十分でも大きな一歩です。署名者のお一人宮崎礼子さんはメッセージに、らいてうの「(核戦争防止と基地撤去の実現には時間がかかるが)根気強くつづけていきましょう」という文章を引用されましたが、わたしたちも「根気よく」「あせらず」、でも「急いで」核兵器のない、すべての戦争がなくなる世界をつくりましょう。

2010年らいてう忌  
百年の女たちのメッセージを聴く  
高良留美子さんのお話  
コーディネーター・米田佐代子さん



明治以降日本人フェミニストが行った社会活動は、日本におけるフェミニズムの可能性と限界という二つの問題を示してきた。それだけでなく、理想とする社会—平和と平等—の実現を求めて女性が用いる曖昧で巧妙な戦略、国家に対して行う複雑な交渉、更には個々の信条や国家の枠を超えて女性が団結できるといふ事実等、さまざまなことがこの社会活動を通じて浮き彫りにされる。しかし、このような創造的かつ複雑なフェミニストの活動を知ること、史料を掘り起こし、「史料に聴く」ことによって初めて可能となる。「百年の女たちのメッセージを聴く」は、まさにこの「聴く」ことをテーマにした集いであった。

女性が理想とする社会を作るための営みや、社会不正義に対する異議申し立ての活動は、彼女たちの生きていく時代や社会からの影響を避けることはできない。しかし、戦間期という、女性にと

って政治的にも社会的にも困難な時代のなかで、さまざまな手段で沈黙を拒んだフェミニストたちの声を「聴く」とき、私たちは彼女たちの努力や行動を知って勇気付けられる。更には、女性たちに沈黙を強い、平和で平等な社会の実現を妨げる政治や社会への洞察を深めることもできる。「史料に聴く」ことにより、「過去」は「現在」の私たちとつながり、「未来」を開く礎が築かれるように感じられる。

2010年のらいてう忌は、高良留美子さんと米田佐代子会長の、しなやかでありながら常に核心を突く話の運びに感嘆し、集い参加者の熱気に共感と興奮を覚えた半日であった。2011年の企画が今から待ち遠しく思われる。

芝原 妙子 (大学非常勤講師)

ニューヨークに届いた  
らいてうの平和のねがい



らいてうの家では6月13日、米田館長の「帰国報告第一声」を聞きました。パワーポイントで写真もたっぷり。英語で街頭署名活動をしたエピソードなど笑いのなかにも世界の反核の動きがよく見えました。東京から「私も行きました」と駆けつ

けた方も交えて話がはずみ、初参加の方からは「力を合わせて活動するみなさんがうらやましい。また立ち寄りたい」という感想も。らいてうは、一度も海外に行きませんでした。今回、らいてうの平和のころざしは確かにニューヨークに届いた、と思えました。東京での報告会は10月2日(土) 予定です。お問い合わせは会まで。

近日発刊!

『らいてう』ニューヨークに行く!

NPT再検討会議・ニューヨーク行動の記録』マンハッタンを駆けめぐった「核廃絶」の波—参加したらいてうの会代表・米田佐代子のホットな報告と寄せられた熱いメッセージを収録したりアルタイム・ドキュメント! (頒価300円) 2010年「らいてうの家」で夏まつり

7月31日から8月8日まで夏まつりを催します。広くなった「家」の庭や、葉草園、ログハウス、あずまや高原ホテルの施設などに案山子・オブジェ・絵画・彫刻など、地元の障害者施設の方や子どもたちも参加して、展示、ライブを開催します。8月8日の夜は、星空観察も計画しています。みなさん誘い合わせて、ぜひ参加してください。第11回全国女性史研究交流のつどい(申込制)

9月4日(土) 12:30から16:50

記念講演・分科会1・懇親会

「一人からはじまる」作家・澤地 久枝さん

9月5日(日) 分科会2 コンサートなど

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター主催 全国女性史研究交流のつどい実行委員会

# 庭づくりに奮闘 すてきな夏祭り会場誕生！



6月12日、新しい「らいてうの家の庭」づくりをしました。会員のほか強力な男性陣や小学生の助っ人も駆けつけて総勢およそ30人、今年最高の暑さに汗を流しながら笹の根切りやチップ撒きに奮闘しました。お昼はバーベキューに恒例の野草のてんぷらやお漬物も出て元気を取り戻し、涼風が吹き始めるころにはごらんとおりすてきなひろい庭になりました。ここで7月31日(土)には



「大和田葉子フルートコンサート」を開催、8日までつづく「あずまや高原の夏祭り」の幕開けです。  
期間中上田駅から送迎バスも出ます。一見の価値あり、ぜひおいでください。

## らいてうの森の植樹と森づくり学習会 地元の郷土食に大満足でした

5月23日、上田駅からバスが出て首都圏から、地元から元気な仲間が集まり、冷たい雨の中、200本のブナの苗木を植えることができました。秋と春2回の笹寄せ、笹刈りと準備をしてきました。がしぶとくはびこる笹に足をとられそうになったり、笹の根切りに苦勞しながら穴を掘り苗木を植えました。ランチ作りを担当していたメンバーも今年最後だからと植樹に回り、力を発揮しました。お昼は、上田の町のコラボ食堂で用意された地元の食材を生かした美味しい郷土食を堪能しました。らいてうの森で採れたタラの芽も早速天ぷらになり、お代わりもたっぷりで大満足。



午後は、林業士の熊崎一也さんから「森を育てる、森に育てられる」のテーマで、これからの森づくりのお話を聞きました。日本の森の持ついる力の大きさ、しかしそれが生かされていない現状、そして、東京都あきる野市の池谷キワ子さんの活動などが紹介されました。また、山の価値は、昔からの山道を探して少人数でゆっくり歩いたり、山の恵みを探したりして身近な自然

を楽しむところにもあるのではなど、示唆に富む講義でした。樹木オーナーの方の名札もしっかりつけ、約40人が雨のなか充実した1日を過ごしました。

5年間の植樹活動へみなさんの熱いご支援をここから感謝いたします。今後は、千二百本の苗木を植えたらいてうの森を見守り育てながら、森の楽しみを見つけていきましょう。春は山菜、花たち、秋はキノコ、鳥や昆虫、動物など、雪の森の観察も楽しみです。

この夏8月8日(日)午前10時から、植樹した苗の成長を守るための笹刈りをします。バスも出ますので、爽やかなカラマツ林のらいてうの森でまた楽しい刻をもちましよう。

### ●4月24日

## たのしく 「家」オープン



菅平から参加の方たちのカンツオーネの歌に聞き惚れ童謡を歌い、持ち寄りのご馳走を頂きみんな笑顔でした。

### 『平塚らいてうの会紀要第二号』

2011年は『青鞥』発刊100年になります。今号は、そのプレ企画として『『青鞥』の時代と信州』の特集号となりました。内容の一部をご披露します。

今年の「家」の特別展示でも紹介されています。『『青鞥』の原風景―平塚らいてうの1908年信州滞在をめぐって』の大論文、また『『青鞥』にかかわりのある信州の女性たち、らいてうや信州ゆかりの女性たちについての紹介があります。

取り上げた女性たちは、『青鞥』創刊時からの社員で信州上伊那郡赤穂村生まれの小説家・加藤みどり、『青鞥』末期にやはり小説を書き、のち新聞記者になって朝鮮・中国に派遣され、「女性特派員の先駆け」といわれる松本出身の五明倭文子（百瀬しづ子）、歌人の四賀光子、若山喜志子、らいてうのお茶の水高女以来の親友小林郁、らいてうと親交のあった鷹野つぎ、母親運動で中心的役割を果たした丸岡秀子、らいてうの戦後を支えた小林登美枝など、どの女性も自立した魅力的な女性たちです。

そして、「らいてうの時代に生きた上田の女性たち」では、上田地域で明治初頭から42年間も教員として働いた河内山寅や保育事業の変遷、上田自由大学で学んだ女性たちなどを紹介し、興味ある特集となっています。

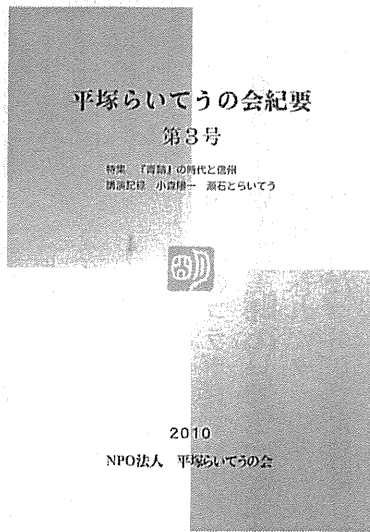
ほかに「海外における平塚らいてうと『青鞥』に関する研究動向」、小森陽一氏の「漱石とらいてう」(らいてう講座講演記録)は「らいてうの会紀要」ならではのお勧めものです。

次号、第四号は『青鞥』発刊100年記念特集号を予定していますので、ご期待ください。

なお、『紀要創刊号』では、日本女子大時代のらいてうに影響を与えた成瀬仁蔵と著作の紹介、らいてうと消費組合「我らの家」、らいてうの平和思想などの論文が掲載されています。

『紀要第二号』は「新しい女」を愛した「新しい男」―奥村博史没後45年に寄せて―の特集、お孫さんたちの寄稿もあり興味深い冊子になっています。

まだ残部がありますので、お求めの方は事務局までご連絡ください。



### らいてうと博史の詩がCDに

晩年の博史の「妻よ、もう十年を一層よく生きようよ」の詩を小林南さんが作曲、佐藤真子さんの歌で「元始女性は太陽であった」とともに、はじめてCDになります。9月発売予定。

### 【事務局日誌】

- 4月5日 第6回常任理事会
- 4月12日 第5回理事会
- 4月15日 紀要編集会議
- 4月19日 2009年度会計監査
- 4月23日 「らいてうの家」展示パネル準備
- 4月24日 「らいてうの家」オープン
- 4月29日 今年度特別展示、イベント内容記者発表
- 4月30日 第11回通常総会（於東京ウイメンズプラザ）、第1回理事会
- 5月15日 米田会長NPT再検討会議NY行動に  
出発（5月6日帰国）
- 5月19日 2010年らいてう忌・高良留美子さんのお話、コディネーター米田会長
- 5月21日 上田・真田「らいてう自伝」勉強会
- 5月23日 紀要編集会議
- 5月26日 森のめぐみ講座「らいてうの森植樹」
- 5月26日 森のめぐみ講座「らいてうの森植樹」
- 5月26日 学習「森を育てる 森に育てられる」
- 5月26日 講師・熊崎一也さん（長野県林業士・信州樵工房）於薬草園研修棟
- 5月26日 第2回理事会
- 6月8日 坂本福子さん「弁護士50周年を祝う会」に出席
- 6月12日 りいてうの家の庭整備作業（笹刈りチップまき）
- 6月13日 りいてう講座1 講師・米田佐代子館長「ニューヨークNPT再検討会議国際行動から帰って」（於らいてうの家）
- 6月17日 記録映画を上映する会総会に出席
- 6月24日 第1回常任理事会